

千葉県福祉サービス第三者評価の評価結果
(保育所等)

1 評価機関

名 称	有限会社第一福祉マネジメント
所在地	千葉県柏市若柴178-4-148-1ウエスト3F チコルフロア内
評価実施期間	令和5年9月1日～令和6年1月11日

2 受審事業者情報

(1) 基本情報

名 称 (フリガナ)	AIAI NURSERY 流山おおたかの森 アイアイナーサリー ナガレヤマオオタカノモリ		
所在地	〒270-0137 千葉県流山市市野谷244		
交通手段	徒歩・車・自転車・電車		
電 話	04 - 7199 - 2083	F A X	04 - 7199 - 2084
ホームページ	https://nursery.aiai-cc.co.jp/facility/ootakanomori/		
経営法人	AIAI Child Care 株式会社		
開設年月日	2020年4月1日		
併設しているサービス	なし		

(2) サービス内容

対象地域	流山市								
定 員	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計		
	6	8	10	12	12	12	60		
敷地面積	623㎡			保育面積		145.3㎡			
保育内容	0歳児保育		障害児保育		延長保育		夜間保育		
	休日保育		病後児保育		一時保育		子育て支援		
健康管理	登降園時に家庭と保育園での健康状態について共有をします								
食事	自園調理。給食・おやつを提供。								
利用時間	平日：7:00～19:00 休日：7:00～18:00								
休 日	日・祝祭日・年末年始								
地域との交流	育児相談・地域の方を招いて遊びの場の提供								
保護者会活動	保護者会は、保育参観後等に年2回程度開催予定です。保育所からは行事やできごとの内容等に関するお知らせし、保護者の方からは御意見をいただく場としています。								

(3) 職員（スタッフ）体制

職 員	常勤職員	非常勤、その他	合 計	備 考
		4	5.8	9.8
専門職員数	保育士(幼稚園教諭含む)	看護師	栄養士	
			2	
	保健師	調理師	その他専門職員	
		1		

(4) サービス利用のための情報

利用申込方法	市区町村へ申し込み	
申請窓口開設時間	9:00~17:00	
申請時注意事項	お子様の健康状態・保育園生活で不安なことは是非お尋ねください	
サービス決定までの時間	1カ月程度	
入所相談	流山市役所子ども家庭課へ相談。随時、園見学は対応	
利用代金	利用子どもが居住する市区町村が定める利用者負担（保育料）	
食事代金	副食費 月額5000円 主食費 月額1000円	
苦情対応	窓口設置	AIAI NURSERY流山おおたかの森 各クラス担任/施設長
	第三者委員の設置	児童・民生委員 長谷部年春

3 事業者から利用（希望）者の皆様へ

<p>サービス方針 (理念・基本方針)</p>	<p>保育理念：一人でも多くの子どもが人間が生まれながらに持っている素晴らしい力を育むことに喜びを感じ、笑顔と元気があふれた園を創造すること。 向上目標／人間関係の向上・精神衛生の向上・身体機能の向上 育成目標／社会力の育成・養護力の育成・人間力の育成</p>
<p>特 徴</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭にはAINIという大型遊具があり、身体を動かす環境が整っています。 ・3歳児クラス以上からは、知識教育（ひらがな等） ・思考教育（IQパズル）を提供し、学ぶ楽しさを感じられる機会を増やすことで小学校へのスムーズな移行を目指しています。
<p>利用（希望）者 へのPR</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達にとって「もう一つの家」として安心して自分らしく過ごせる保育園でありたいと日々、保育に従事しています。子どもの個性を尊重し、一人ひとりにあった援助を職員一同、心がけています。 ・歩いて1分の場所にAIAI NURSERY第二流山おおたかの森があり、2園合同での行事 ・子どもたち同士の交流の機会を設けています。小学校へ進学の際には、園外の友達もでき、安心感して卒園ができる環境です。

福祉サービス第三者評価総合コメント

特に力を入れて取り組んでいること
子ども一人ひとりにあわせた丁寧な保育に取り組んでいる
<p>「一人でも多くの子どもが人間が生まれながらに持っている素晴らしい力を育むことに喜びを感じ、笑顔と元気が溢れた園を創造する」という園の保育理念を実現するため、子ども一人ひとりにあわせた丁寧な保育を追求している。園でのプログラムも遊びの一部であるという考えのもと、子どもが笑顔で楽しみながら様々なことを習得し、「もっとやってみよう」という気持ちの芽生えから、興味や関心を広げていけるような保育を展開している。乳児期の保育者との深い愛着関係による信頼感の醸成、幼児期は他者への信頼感を基盤として、友だちとの良好な関係構築や主体性・社会性の基礎を大きく開花できるような保育を重視している。</p>
アクティブラーニングの取り組み
<p>子ども達が遊びや生活を通しての学びを経験できるよう、身体機能の向上及び人間力の育成を達成するための運動プログラムを実施しているほか、映像講座プログラムによる英語との触れあいの時間も保育に取り入れている。また、就学前能動的学習の取り組みとして、楽しみながら学べるIQ(いききゅう)パズルという教材を用意して、数量や図形・標識・文字などへの関心・感覚を身につける取り組みを行っている。子どもの成長・発達に合わせて、幼少期からの経験・体験を充実させることで、「生きる力と考える力」の基礎を培うことが出来るように力を入れて取り組んでいる。</p>
多彩な戸外遊びや行事の取り組みにより子どもの可能性を広げる取り組みを推進している
<p>日常の保育の中で、戸外遊びを積極的に取り入れており、散歩などを通じて四季折々の季節の変化を感じたり、調理員が作ったお弁当を持って近隣の公園にハイキングに行くなど、地域の社会資源を活用している。今年度は新たな取り組みとして、最寄り駅を訪問して公共交通機関での約束事を伝え、社会性の育ちに繋げる行事も行った。また、近隣の系列園との共催で、乳児対象のあそびコーナーやベビーマッサージ、おやつを試食会、食に関する相談会などを行うベビーフエスティバルの開催や、スポーツフェスティバルやウォーターフェスティバルなど、子どもが楽しみながら興味や関心を広げるような多彩な行事を実施している。また、日本の伝統行事や、各種季節行事についても、由来を含めて子どもに伝える取り組みを行っているほか、行事の実施までの間に、子どもがワクワク感を持ち、友だちと一緒に行事を作り上げるような仕掛け、工夫を保育士が検討を重ねながら実践し、子どもの自己肯定感や可能性を広げることに繋げている。</p>
子どもが楽しみながら食への興味や関心を深めるような取り組みが目指されている
<p>栄養士が中心となって、0歳児から5歳児までの各年齢別の食育計画を立案しており、園独自の給食委員会や職員会議において内容の評価や検証を行うことで、園全体で食育を推進している。保護者にも独自に発行している給食のレシピ集を通じて、情報発信している。園庭にプランターを設置して夏野菜の栽培を行っており、植え付けや当番活動での水やり・収穫などを行い、子どもが楽しみながら食材や食への関心を深める取り組みを推進している。また、近隣の芋ほり体験や、ハイキング食・ちらし寿司などの行事食メニューの提供、お誕生日ケーキの提供のほか、スイートポテト作り、クッキー作り、春巻きスティック作り、さつまいも茶巾作り、ラップおにぎり作りなど、年齢に応じて、多様な参加型の食育プログラムを、年間を通じて計画的に実施している。</p>
子どもが健康を維持し快適に過ごせるように衛生面の管理に力を入れて取り組んでいる
<p>室内は、衛生管理マニュアルに従い室温や湿度の設定を行い、加湿器、空気清浄機、エアコンの使用や定期的な換気などにより、どの季節も快適に過ごせるような環境を整えている。冬季には床暖房も活用し、できる限り湿度を維持しながら、快適な温度を保てるようにすることで、感染症などの抑制にも配慮している。用務の職員を中心として、保育室及び共用部は次亜塩素酸消毒液を使用して毎日清掃消毒作業を行い、子どもたちが使う玩具、とりわけ乳児に関しては口に入れても大丈夫なように消毒し、十分な衛生管理を行っている。室内外のおもちゃ等も、危険が無いように常に整理整頓がなされている。子どもの手洗いに際しては、衛生面に配慮して使い捨てのペーパータオルを使用しているほか、食事やおやつ前・遊んだ後の手洗いを徹底することで、園での生活を通じて健康を維持するための習慣が自然と身につくような取り組みが目指されている。</p>

さらに取り組みが望まれるところ
<p>更なる人材の定着・確保に向けて職員の育成や業務標準化に向けた取り組みが期待される</p> <p>職員全体に対する非常勤職員の比率が高い傾向にあり、若い正職員が多く在籍していることから、園長のリーダーシップによって個々に応じたきめ細やかな保育の展開が目指されている。今年度は新たな取り組みとして、パートミーティングの仕組みを構築し、職員会議で検討されたことを非常勤の職員にも適切に周知し、全職員が同じ方向に向かう体制づくりに取り組んでいる。職員アンケートにおいては、職員間の連携体制や職場の風土はより良い方向に向かっているという声が聞かれている。経験豊富なパート職員が多数いることを園の強みとして、パート職員を含めた情報共有や勤続年数の浅い職員への研修実施と振り返りの強化など、業務標準化に向けた更なる取り組みが期待される。</p>
<p>地域との更なる連携により子どもの経験や体験の幅を一層広げる取り組みが期待される</p> <p>地域の子育て世帯を対象とした企画として、「保育体験・子育て相談会」を定期的開催し、参加者の年齢や人数に応じて、園の玩具や設備を使った遊びの体験、絵本の読み聞かせ、製作活動等を行い、園の理念や特徴的な保育内容などを親子で体験できる機会としている。今年度は、ベビーフェスティバルの開催や図書館訪問、地域の農家での芋ほり体験・駅隣接の複合施設の訪問なども実施し、地域資源の活用を図っている。しかしながら、地域自体が数年前に新たに開発されたばかりであるという特性もあり、地域との連携や地域資源の活用については更なる余地があると考えられる。地域との連携・地域資源の活用による子どもの経験・体験の幅を広げる取り組みの充実が期待される。</p>
<p>地域との連携を強化し子どもの可能性を広げるための更なる取り組みが期待される</p> <p>日常的な地域との関わりは、散歩時に近隣住民の方々と挨拶を交わしたり、年長児の近隣小学校での見学や小学1年生との交流事業などを行っている。年長児は近隣の系列保育園とも交流活動を行っており、ドッジボールなどを通して、他の保育園児との関係づくりを行い、小学校就学後に、顔見知りやお友だちが増えるような配慮も行っている。新型コロナウイルスによるこれまでの影響や人員面などの要因により、地域との交流事業はなかなか実施できない状況が続いているが、園として、子どもたちの更なる経験・成長の機会を創出すべく、近隣他園との相互交流事業も計画当中である。実現には様々な障壁も想定されるが、更なる地域との連携強化により、子どもの可能性を一層広げていける取り組みの実現が期待される。</p>

<p>(評価を受けて、受審事業者の取り組み)</p> <p>この度は、貴重なご意見をいただく機会を作ってくださいましてありがとうございました。当園は、年度途中で職員体制の変更があり利用の保護者様や職員に不安な思いをさせてしまったことが大きな課題であると感じています。また、安定しない職員体制の中で保育観の共有や細かな統一認識が十分ではなかったと反省しています。</p> <p>ご意見をいただいたことで新たな取り組みを実施しています。</p> <p>①月に1回の職員会議の場でマニュアルを用いた研修(15分)を行う。</p> <p>②パート会議を少人数で実施し活発な話し合いの場にする。</p> <p>③保護者様に保育園の様子を知ってもらう機会を確保する。(2月に思考教育の保育参観を実施予定)</p> <p>保護者様と職員からの両方の意見を取り入れ、更なる保育園運営の向上に努めて参ります。</p> <p>また、地域との連携においては課題が大きく残っているので、来年度の目標にしていきます。</p>

福祉サービス第三者評価項目（保育所等）の評価結果

大項目	中項目	小項目	項目	標準項目		
				■実施数	□未実施数	
I 福祉サービスの基本方針と組織運営	1 理念・基本方針	理念・基本方針の確立	1 理念や基本方針が明文化されている。	3	0	
			2 理念や基本方針が職員に周知・理解されている。	3	0	
			3 理念や基本方針が利用者等に周知されている。	3	0	
	2 計画の策定	事業計画と重要課題の明確化	4 事業計画が適切に策定され、計画達成のため組織的に取り組んでいる。	6	0	
			5 施設の事業計画等、重要な課題や方針を決定するに当たっては、職員と幹部職員とが話し合う仕組みがある。	3	0	
	3 管理者の責任とリーダーシップ	管理者のリーダーシップ	6 理念の実現や質の向上、職員の働き甲斐等に取り組み指導力を発揮している。	5	0	
			4 人材の確保・養成	7 全職員が遵守すべき法令や倫理を明示し周知している。	3	0
				8 人事方針を策定し、人事を計画的・組織的にを行い、職員評価が客観的な基準に基づいて行われている。	4	0
				9 事業所の就業関係の改善課題について、職員(委託業者を含む)などの現場の意見を幹部職員が把握し改善している。また、福利厚生に積極的に取り組んでいる。	5	0
		10 職員の教育・研修に関する基本方針が明示され、研修計画を立て人材育成に取り組んでいる。	5	0		
II 適切な福祉サービスの実施	1 利用者本位の保育	利用者尊重の明示	11 施設的全職員を対象とした権利擁護に関する研修を行い、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している。	4	0	
			12 個人情報保護に関する規定を公表し徹底を図っている。	4	0	
		利用者満足度の向上	13 利用者満足度の向上を意図した仕組みを整備し、取り組んでいる。	4	0	
			14 苦情又は意見を受け付ける仕組みがある。	4	0	
	2 教育及び保育の質の確保	教育及び保育の質の向上への取り組み	15 教育及び保育内容について、自己評価を行い課題発見し改善に努め、教育及び保育の質の向上に努めている。	3	0	
			16 提供する教育及び保育の標準的実施方法のマニュアル等を作成し、また日常の改善を踏まえてマニュアルの見直しを行っている。	4	0	
	3 教育及び保育の開始・継続	教育及び保育の適切な開始	17 保育所等利用に関する問合せや見学に対応している。	2	0	
			18 教育及び保育の開始に当たり、教育及び保育方針や内容を利用者に説明し、同意を得ている。	4	0	
	4 子どもの発達支援	教育及び保育の計画及び評価	19 保育所等の理念や保育方針・目標に基づき全体的な計画が適切に編成されている。	4	0	
			20 全体的な計画に基づき具体的な指導計画が適切に設定され、実践を振り返り改善に努めている。	5	0	
			21 子どもが主体的に活動できる環境が整備されている。	6	0	
			22 身近な自然や地域社会と関わられるような取組みがなされている。	4	0	
			23 遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している。	6	0	
			24 特別な配慮を必要とする子どもの教育及び保育が適切に行われている。	6	0	
25 在園時間の異なる子どもに対して配慮がなされている。			4	0		
26 家庭及び関係機関との連携が十分図られている。			3	0		
	子どもの健康支援	27 子どもの健康状態、発育、発達状態が適切に把握し、健康増進に努めている。	4	0		
		28 感染症、疾病等の対応は適切に行われている。	3	0		
5 安全管理	環境と衛生	30 環境及び衛生管理は適切に行われている。	3	0		
		31 事故発生時及び事故防止対策は適切に行われている。	4	0		
		32 地震・津波・火災等非常災害発生時の対策は適切に行われている。	5	0		
6 地域	地域子育て支援	33 地域ニーズを把握し、地域における子育て支援をしている。	5	0		
		計	136	0		

保育所等 項目別評価コメント

(利用者は子ども・保護者と読み替えて下さい)

標準項目 整備や実行が記録等で確認できる。 確認できない。

評価項目	標準項目
1 理念や基本方針が明文化されている。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 理念・基本方針が法人・保育所等の内部文書や広告媒体(パンフレット、ホームページ等)に記載されている。 ■ 理念・基本方針から、法人、保育所等が実施する教育及び保育の内容や法人、保育所等の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。 ■ 理念・基本方針には、児童福祉法や保育所保育指針の保育所等・教育及び保育に関する基本原則が盛り込まれている。 <p>(評価コメント) 理念・方針は事業計画・入園案内・配付リーフレット・ホームページなどに明記しており、経営理念のもと行動指針や社訓、保育理念からも目指す方向や使命が読み取れる内容となっている。向上目標・育成目標には人権擁護や自立支援の精神が盛り込まれている。保育理念として「一人でも多くの子どもが、人間が生まれながれらに持っている素晴らしい力を育むことに喜びを感じ、笑顔と元気が溢れた園を創造すること」と掲げ、子ども達を「未来の力」と位置づけ、将来社会に貢献し活躍できる存在となる為に、「周りの人と関係を築く・周りの人の力になれる・周りの人に応援される」を保育方針とし取り組んでいる。子どもにとってもう一つの家になるように、子ども一人ひとりの要求に耳を傾け、寄り添っていく願いが込められている。</p>
2 理念や基本方針が職員に周知・理解されている。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 理念・方針を事業所内の誰もが見やすい箇所に掲示し、職員配布文書に記載している。 ■ 理念・方針を会議や研修において取り上げ職員と話し合い共有化を図っている。 ■ 理念・方針の実践を日常の会議等で話し合い実行面の反省をしている。 <p>(評価コメント) 法人独自で作成した「社史」や「就労の心得」を全職員に配付しており、新規採用者の研修なかで理念・方針についての詳しい説明が行われている。理念や方針は、朝礼で唱和をし、言葉にすることで意識し、何かあった時には振り返れるように園のエンタランスに掲示している。また、理念や方針を「理念の因数分解」という呼び方で、職員全員で言葉の意味を深掘りし、解釈を行うことを通して共有している。行動レベルとして今後の業務でどのように活かすのかを考え、実行後の振り返りを行い、理念に基づいた保育が実現できるように努めている。</p>
3 理念や基本方針が利用者等に周知されている。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 契約時等に理念・方針が理解しやすい資料を作成し、分かりやすい説明をしている。 ■ 理念・方針を保護者に実践面について説明し、話し合いをしている。 ■ 理念・方針の実践面を広報誌や手紙、日常会話などで日常的に伝えている。 <p>(評価コメント) 利用者への理念や保育方針の理解浸透に向けて、園見学の際にはリーフレットを使用し理念・方針の説明を行っている。入園前の全体説明会では、具体的な内容を入園案内のパンフレットや重要事項説明書で改めて説明し、その後に行う個人面談の中では一人ひとりの質問や疑問に丁寧に答え、周知をはかっている。園だより・ホームページ等では、日常の保育に理念や保育方針をどのような形で取り入れているかを伝えるとともに、毎日更新されているブログでは保育活動や日常の子ども達の様子を報告している。年に2回配布する「AIAIレポート」では、子ども一人ひとりに応じた保育目標に基づいて支援の方法や結果を記載することで、園の方針や取り組みを周知している。</p>
4 事業計画が適切に策定され、計画達成のため組織的に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 中・長期事業計画を踏まえて策定された事業計画が作成されている。 ■ 事業計画が具体的に設定され実施状況の評価が行える配慮がなされている。 ■ 理念・基本方針により重要課題が明確にされている。 ■ 事業環境の分析から重要課題が明確にされている。 ■ 現状の反省から重要課題が明確にされている。 ■ 運営の透明性の確保に取り組んでいる。 <p>(評価コメント) 首都圏・大阪でグループ園を展開している法人であり、事業計画は本部で作成されたものを基に、施設長が園の状況や環境・職員の意向などを加味し現状に沿った内容のものを作成している。長期的計画や短期的計画を全職員で共通認識し、PDCAサイクルの一連の流れを繰り返し行い、保育の質の向上に努めている。また、園運営の基盤となる人材の確保・育成について取り組んでおり、職員一人ひとりに保育向上管理担当を割り振り、それぞれが責任を持って担当業務を遂行できるようにしている。</p>
5 事業計画等、重要な課題や方針を決定するに当たっては、職員と幹部職員とが話し合う仕組みがある。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各計画の策定に当たっては、現場の状況を把握し、職員等の参画や意見の集約・反映のもとに策定されている。 ■ 方針や計画、課題は会議や研修会等にて説明し、全職員に周知されている。 ■ 年度終了時はもとより、年度途中にあっても、あらかじめ定められた時期、手順に基づいて事業計画の実施状況の把握、評価を行っている。 <p>(評価コメント) 千葉県で最多の施設運営を行っている法人であり、運営体制として本社に保育事業本部が置かれている。施設長を対象とした法人の会議(全施設・千葉エリアの月2回実施)にて、法人全体の動向を把握するほか、重要な方針が決定された際は、会議の過程や決定事項が、全職員に理解出来るよう、その都度報告・連絡を行い周知が図られている。また、円滑な園運営に向けて、本部の担当者が年に一回園を訪問し、整備すべき書類の確認、保育状況や保育環境等を、チェックリストを用いて監査している。職員が不明に思っている方針や計画についても直接説明することで職員の理解が進むように取り組んでいる。</p>

6	理念の実現や質の向上、職員の働き甲斐等に取り組み指導力を発揮している。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 理念・方針の実践面の確認等を行い、課題を把握し、改善のための具体的な方針を明示して指導力を発揮している。 ■ 職員の意見を尊重し、自主的な創意・工夫が生まれやすい職場づくりをしている。 ■ 研修等により知識・技術の向上を図り、職員の意欲や自信を育てている。 ■ 職場の人間関係が良好か把握し、必要に応じて助言・教育を行っている。 ■ 評価が公平に出来るように工夫をしている。
<p>(評価コメント)</p> <p>毎月の職員会議のほか、カンファレンス会議、リーダー会議などを行うことで、保育に対する各クラスの要望や提案を聞く機会を設けている。また、保育の様子を動画に撮りカンファレンスを行うことで自主的な創意・工夫が生まれやすい職場づくりをしている。実行計画は施設長を含む全体で評価・反省を行い課題の改善に努めている。</p> <p>研修については個人別育成計画をもとに個々の希望に沿った研修を受けられるよう支援しているほか、市からの研修案内等のバックアップがあり、該当する職員が研修に参加している。職場の人間関係の状況の把握にも努め、働きやすい職場づくり、得意な分野を活かせるような仕組みづくりに取り組んでいる。職員の評価も法人マネージャーや系列園の施設長が来園し、評価が偏らないように職員面談を行っている。</p>		
7	全職員が遵守すべき法令や倫理を明示し周知している。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 遵守すべき法令や倫理を文書化し、職員に配布されている。 ■ 全職員を対象とした、法令遵守と倫理に関する研修を実施し、周知を図っている。 ■ プライバシー保護の考え方を職員に周知を図っている。
<p>(評価コメント)</p> <p>新入職員を対象としたスタートアップ研修が実施されており、保育業務従事者として守るべき倫理及び法令遵守に関する研修等を行っている。職員には行動指針や倫理・道徳などについて記載されているマニュアル本「経験年数に応じた教科書」と手帳型の「社史」、全国保育士会倫理綱領を配布しているほか、理念や行動指針を含めた文章を施設内に掲示し、日常的に確認できるようにしている。また、人権擁護のためのセルフチェックなどを実施している。法人には「コンプライアンス違反通報窓口」が設置されており、匿名でも相談できるようになっている。虐待防止やプライバシー保護・個人情報の取り扱い方についてはマニュアルを用意して、職員による不適切な対応が行われないように研修を実施し、全職員に周知徹底を図っている。</p>		
8	人事方針を策定し、人事を計画的・組織的に行い、職員評価が客観的な基準に基づいて行われている。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 人材確保・定着・育成の方針と計画を立て実行している。 ■ 職務の権限規定等を作成し、職員の役割と権限を明確にしている。 ■ 評価基準や評価方法を職員に明示し、評価の客観性や透明性の確保が図られている。 ■ 評価の結果について、職員に対して説明責任を果たしている。
<p>(評価コメント)</p> <p>法人で人事方針を策定し、キャリアパスフレーム(職能等級表)や共通基礎課程という人材育成の計画が明確にされており、eラーニングで受講する事になっている。ほかにもそれぞれのキャリアにあわせた研修制度が充実している。人事考課については職員面談の際に、自己評価の内容と園の評価の差異を職員が納得のいくように丁寧に説明することで、職員に対して説明責任を果たしている。職員の異動・配置等については、本人の意向を調査したうえで、本部が計画的に進める体制となっている。</p>		
9	事業所の就業関係の改善課題について、職員(委託業者を含む)などの現場の意見を幹部職員が把握し改善している。また、福利厚生に積極的に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 担当者や担当部署等を設置し職員の有給休暇の消化率や時間外労働のデータを、定期的にチェックしている。 ■ 把握した問題点に対して、人材や人員体制に関する具体的な改善計画を立て実行している。 ■ 職員が相談をしやすいような組織内の工夫をしている。 ■ 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生事業を実施している。 ■ 育児休暇やリフレッシュ休暇等の取得、ワーク・ライフ・バランスに配慮した取り組みを行っている。
<p>(評価コメント)</p> <p>職員の人事管理や給与計算は、本社経営管理課が主管して、各保育所の事務的な負担を軽減している。勤務体制はシフト制となっているほか、勤務状況については施設長が毎月法人労務課へ報告している。時間外勤務などが多く、気になる職員には抱えている仕事をヒアリングし、事務時間の確保等を行っている。有給休暇の取得については職員の希望日でまんべんなく消化できるよう努めており、職員配置に問題がないことを確認して施設長が承認している。また、働きやすさや働きがいについて相談しやすい環境づくりを心がけており、3か月に1度施設長と全職員の1on1ミーティングを実施している。新卒の職員には専属の先輩職員を共育係として配置し、相談しやすい環境で定期的に面談を行っている。</p>		
10	職員の教育・研修に関する基本方針が明示され、研修計画を立て人材育成に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 中長期の人材育成計画がある。 ■ 職種別、役割別に能力基準を明示している。 ■ 研修計画を立て実施し、必要に応じて見直している。 ■ 個別育成計画・目標を明確にしている。 ■ OJTの仕組みを明確にしている。
<p>(評価コメント)</p> <p>職員一人ひとりにキャリアアップのための個人別育成計画が作成されており、それを基に年度単位の研修計画が立てられ、研修に参加しスキルアップを図る機会が設けられている。さらに、法人で必要と考えるスキルが身につくよう、年間で計画された内容をeラーニングで学べる環境となっている。また、保育士のスキルは、知識のほかに経験によって習得されるものが多いことから、新卒社員一人ひとりに対して先輩社員を専任の共育担当者として位置づけ、きめ細かく指導・育成する環境を整備している。ミーティングを実施しながら仕事における問題解決のサポートだけでなく、仕事以外の相談事や悩みも共有し、社会人一年目のハードルを乗り越えたと共に、新卒社員・共育担当両方の成長・質の向上に繋げている。</p>		

11	全職員を対象とした権利擁護に関する研修を行い、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 子供の尊重や基本的人権への配慮について勉強会・研修を実施している。 ■ 日常の援助では、個人の意思を尊重している。 ■ 職員の言動、放任、虐待、無視など行われることの無いように、職員が相互に振り返り組織的に対策を立て対応している。 ■ 虐待被害にあった子どもがいる場合には、関係機関と連携しながら対応する体制を整えている。
<p>(評価コメント)</p> <p>保育所保育指針に基づき、子どもたちの最善の利益に配慮した保育環境を提供することとし、職員は法の基本方針や児童権利宣言についての外部研修を受講している。日常の援助では子どもの基本的人権を尊重することを伝えるほか、子どもの気持ちに寄り添い、思いや欲求を満たすよう、施設長が現場に入って実践を通じて職員に伝えている。事例をもとに考えたりする機会を設けているほか、虐待となる行為についてマニュアルで詳しく説明している。職員は虐待チェックシートによって定期的に自身の保育について振り返りを行っている。また、家庭での虐待の疑いがある際は、自治体と児童相談所に通報し、関係機関と連携しながら対応している。</p>		
12	個人情報保護に関する規定を公表し徹底を図っている。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 個人情報の保護に関する方針をホームページ、パンフレットに掲載し、また事業所等内に掲示し実行している。 ■ 個人情報の利用目的を明示している。 ■ 利用者等の求めに応じて、サービス提供記録を開示することを明示している。 ■ 職員(実習生、ボランティア含む)に研修等により周知徹底している。
<p>(評価コメント)</p> <p>個人情報保護規定を定め、保護者には入園案内・重要事項説明書にて、個人情報の使用目的と保護者の同意を得ずに第三者に提供しないこと等を記述し、入園説明会の際に口頭でも説明をして同意を得ている。更に園だよりなどにも掲載する事で周知を図っている。また、ブログ等に掲載する写真についても入所時に説明を行い、必ず承諾を得るようにしている。職員に対しても、スタートアップ研修でコンプライアンス研修を行い、理解浸透に取り組んでいるほか、個人情報保護のマニュアルを事業所に置き、周知徹底が図られている。実習生やボランティアに関しても、オリエンテーション時に個人情報保護についての説明を行っている。</p>		
13	利用者満足度の向上を意図した仕組みを整備し、取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 利用者満足度を把握し改善する仕組みがある。 ■ 把握した問題点の改善策を立て迅速に実行している。 ■ 利用者・家族が要望・苦情が言いやすい雰囲気を作っている。 ■ 利用者等又はその家族との相談の場所及び相談対応日の記録がある。
<p>(評価コメント)</p> <p>保護者参加の行事後(運動会、夏祭り、卒園式等)、保育園利用全体のアンケート調査を実施しており、意見を集計して主だった意見に対する回答を伝えているほか、次年度の活動に活かしている。保護者・施設長・第三者により運営委員会を開催し、保護者の意見を取り入れ運営に活かしている。また、保護者会・保育参観では多くの保護者が参加しており、日常的な保育の取り組みを見てもらうだけでなく、子どもと一緒に活動する保育参加の機会にもなっている。日頃から保護者とのコミュニケーションを大切にしてい、登降園時には施設長も出来るだけ対応に当たり、担任以外の保育士も積極的に声をかけるよう努めている。</p>		
14	苦情又は意見を受け付ける仕組みがある。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 保護者に交付する文書に、相談、苦情等対応窓口及び担当者が明記され説明し周知徹底を図っている。 ■ 相談、苦情等対応に関するマニュアル等がある。 ■ 相談、苦情等対応に関する記録があり、問題点の改善を組織的に実行している。 ■ 保護者に対して苦情解決内容を説明し納得を得ている。
<p>(評価コメント)</p> <p>苦情解決制度を導入しており、施設長を苦情解決責任者、主任保育士・各担任保育士を苦情受付担当者とし、公平な立場による判断と個々のケースに配慮した適切な対応が取れるよう第三者委員も設置している。周知については、入園案内・重要事項説明書への掲載、玄関での掲示、入園説明会の際には口頭にて丁寧な説明がなされている。また、本部に相談窓口を設け、保護者がいつでも連絡できるよう法人宛の葉書の配付も行われている。苦情が発生した際は、法人のグループネットワークを通じて共有を図り、改善に向けて対して全職員に周知して対応を行っている。</p>		
15	教育及び保育内容について、自己評価を行い課題発見し改善に努め、教育及び保育の質の向上を図っている。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 教育及び保育の質について自己評価を定期的に行う体制を整備し実施している。 ■ 教育及び保育の質向上計画を立て実行し、PDCAサイクルを継続して実施し恒常的な取り組みとして機能している。 ■ 自己評価や第三者評価の結果を公表し、保護者や地域に対して社会的責任を果たしている。
<p>(評価コメント)</p> <p>提供している保育が、より質の高いものになるようにするために年に2回の自己評価シートを実施するほか、法人内監査での評価が行われ課題となる部分については改善に努めている。また、保育理念をもとに行動レベルでの保育の質の向上計画の毎月の振り返りと目標に対する取り組みを振り返る面談を3か月ごとに実施している。第三者評価は今年度初回の受審となり現在のところ公表には至っていないが今年度の結果は公表予定である。</p>		

16	提供する教育及び保育の標準的実施方法のマニュアル等を作成し、また日常の改善を踏まえてマニュアルの見直しを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ■業務の基本や手順が明確になっている。 ■分からないときや新人育成など必要に応じてマニュアルを活用している。 ■マニュアル見直しを定期的実施している。 ■マニュアル作成は職員の参画のもとに行われている。
(評価コメント) 日常の保育業務、職場のルールなどが明確に示されているマニュアルを職員全員が手に取りやすい場所に置いてあり、現場の状況や季節に合わせて必要なマニュアルは読み返し、実際の保育に不安なく当たることが出来るようにしている。日常の業務においてわからない事項があった場合にも、マニュアルに記載されている内容を確認する等の活用が図られている。園独自のルールは年度初めのオリエンテーションで読み合わせ周知し、職員の参画の下、必要に応じて、改善・追加している。また、マニュアルは法人全体で作成されるが定期的な見直しの際には、現場の声を施設長が法人に届ける方法がとられている。		
17	保育所等利用に関する問合せや見学に対応している。	<ul style="list-style-type: none"> ■問合せ及び見学に対応できることについて、パンフレット、ホームページ等に明記している。 ■問合せ又は見学に対応し、利用者のニーズに応じた説明をしている。
(評価コメント) 法人のホームページや、園のドキュメンテーションブログ・開催案内のチラシやポスターの掲示など、多様な方法で情報を発信している。保育園体験会を定期的に開催しており、園見学とともに園の保育内容や運営方針、特色をリーフレットを使って説明している。入園希望者のみならず、子育てに関する悩みや疑問に幅広く対応した子育て相談会も実施し、園長や保育士等が丁寧に相談に応じる体制を整えている。また、園見学は随時受付を行っており、利用希望者の意向に応じて平日の午前又は午後で調整している。見学時の説明は原則として保育現場での経験が豊富な園長が直接対応しており、一人ひとりの状況に応じた、丁寧な見学対応が目指されている。		
18	教育及び保育の開始に当たり、教育及び保育方針や内容等を利用者説明し、同意を得ている。	<ul style="list-style-type: none"> ■教育及び保育の開始にあたり、理念に基づく教育及び保育方針や内容及び基本的ルール等を説明している。 ■説明や資料は保護者に分かりやすいように工夫している。 ■説明内容について、保護者の同意を得るようにしている。 ■教育及び保育の内容に関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している。
(評価コメント) 入園前説明会時には、入園案内や重要事項説明書を配付し、園の理念や特色である幼児教育の取り組み・年間行事・日課など、園の運営方針などについて説明を行い、説明後に同意書に署名捺印を頂いている。重要事項説明書は、アレルギー対応を含む子どもの健康管理や給食対応、災害時の安全対策、必要書類、園の利用にあたっての留意事項など、表を効果的に活用して構成されており、初めて利用する方が理解しやすいよう配慮している。利用開始時には個別面接を行い、保護者の意向や要望・子どもの生活状況や配慮事項などについて丁寧に確認して、把握した内容は面談表や児童票等に記録して、全職員で共有することで、子ども一人ひとりに応じた保育に活かしている。		
19	保育所等の理念や教育及び保育方針・目標に基づき全体的な計画が適切に編成されている。	<ul style="list-style-type: none"> ■全体的な計画は児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて作成している。 ■全体的な計画は、教育及び保育の理念、方針、目標及び発達過程などが組み込まれて作成されている。 ■子どもの背景にある家庭や地域の実態を考慮して作成されている。 ■施設長の責任の下に全職員が参画し、共通理解に立って、協力体制の下に作成されている。
(評価コメント) 全体的な計画は児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえた上で、法人が作成している。全体的な計画の内容は、毎年年度初めの職員会議を通じて、園長が職員に説明して内容を周知している。それをもとに地域環境や利用家庭の状況等をふまえた年齢別の年間カリキュラム、月案、週案などを作成し、クラスミーティングや職員会議・パートミーティングの仕組みを通じて評価・反省を行っている。年度末には職員会議を通じて全体の評価や反省を行うことで、年間を通じた目標の達成状況や課題点を園として明確にし、翌年度の計画に反映する体制としており、子どもの育ちを多くの人とともに共感し、喜びあいながら育める保育の取り組みが目指されている。		
20	全体的な計画に基づき具体的な指導計画が適切に設定され、実践を振り返り改善に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ■全体的な計画に基づき、子どもの生活や発達を見通した長期的な指導計画と短期的な指導計画が作成されている。 ■乳児、1歳以上3歳未満児、障害児等特別配慮が必要な子どもに対しては、個別計画が作成されている。 ■発達過程を見通して、生活の連続性、季節の変化を考慮し、子どもの実態に即した具体的なねらいや内容が位置づけられている。 ■ねらいを達成するための適切な環境が構成されている。 ■指導計画の実践を振り返り改善に努めている。
(評価コメント) 全体的な計画に基づき、子どもの生活や発達を見通した長期的な指導計画としての年間カリキュラム、短期的指導計画としての月案・週案を作成し、それぞれの計画が連動する形で、子どもの生活や発達を支援している。また、3歳未満児に関しては、成長や発達の状況に応じた個別の計画を作成し、個々の発達度合いに応じた保育を展開している。計画の内容は、毎月実施するクラスミーティングにおいて評価や検証を行うとともに、職員会議やパートミーティングを通じて職員全体に周知することで、職員の連携のもとで、子どもの無限の可能性を引き出せるような取り組みが目指されている。障がい児については個別の計画を立案し、個々の状態に応じた保育を提供している。2カ月に1回開催する園内研修のビデオ・カンファレンスにおいて、動画で撮影した保育の様子を検証し、子どもの動きや職員の関わり方、環境面での配慮など、保育士として求められる「気づき」を促し、子どもを第一に考えた質の高い保育の実現に向けて組織が一丸となって取り組んでいる。		

21	子どもが主体的に活動できる環境が整備されている。	<ul style="list-style-type: none"> ■子どもが安心感と信頼感をもって活動できるよう、子どもの主体としての思いや願いを受け止めている。 ■子どもの発達段階に即した玩具や遊具などが用意されている。 ■子どもが自由に素材や用具などを自分で取り出して遊べるように工夫されている。 ■好きな遊びができる場所が用意されている。 ■子どもが自由に遊べる時間が確保されている。 ■教育及び保育者は、子どもが主体性を発揮できるような働きかけをしている。
<p>(評価コメント)</p> <p>園庭には、遊ぶだけで自然と必要な運動機能が身につくオリジナル大型遊具「AINI」が設置され、トンネル・階段・クライミングウォール・プラネタリウムなどでの主体的な遊びを通じて、多様な動きや体幹などを養えるようになっている。また、熱中症アラートが発令された場合や、雨天時などにも、子どもが楽しく室内で身体を動かせるよう、マットやトンネル・バランスストーン・鉄棒など、多様な室内遊具も取り揃えている。表現に関する取り組みも積極的に行っており、0歳・1歳児の楽器遊びや歌、フィンガーペインティング、五感を刺激する感覚遊びなど、年齢に応じた表現活動を計画的に実施している。1日の中で子どもが自由に主体的に遊べる時間を確保しており、幼児はままごとや製作、絵本、ブロックなど、各コーナーを設定している。玩具や絵本は、子どもが自由に取り出せるような収納の工夫を行っており、子どもの様子や発達に応じて、適宜入れ替えや追加を行う体制としている。子どもへの声掛けについても、子どもから言葉を引き出せるように問いかけるような声掛けとすることで、指導的にならないように配慮した保育を展開している。1クラスあたりの人数が比較的少人数であることを強みとして、子ども一人ひとりに応じた丁寧な関わりを行っており、乳児期においては保育者への愛着関係による大人への信頼感の醸成、幼児期は大人への信頼感をベースとして友だちとの良好な関係構築や主体性・社会性の基礎を築く保育を重視している。</p>		
22	身近な自然や地域社会と関われるような取り組みがなされている。	<ul style="list-style-type: none"> ■子どもが自然物や動植物に接する機会を作り、教育及び保育に活用している。 ■散歩や行事などで地域の人達に接する機会をつくっている。 ■地域の公共機関を利用するなど、社会体験が得られる機会をつくっている。 ■季節や時期、子どもの興味を考慮して、生活に変化や潤いを与える工夫を日常教育及び保育の中に取り入れている。
<p>(評価コメント)</p> <p>日常の保育の中で戶外遊びを積極的に取り入れており、散歩などを通じて四季折々の季節の変化を感じたり、子どもが拾った自然物を持ち帰り、季節をテーマとした製作活動も行っている。今年度は新たな取り組みとして、最寄り駅を訪問して公共交通機関での約束事を伝え、社会性の育ちに繋げる取り組みも行った。また、食育活動の一環で、子どもがスーパーに買い物に行ったり、図書館に行って本を借りる取り組み、調理員が作ったお弁当を持って近隣の公園にハイキングに行くなど、地域の社会資源を活用する取り組みを行っている。その他、イベントとしてスポーツフェスティバルやウォーターフェスティバル、お月見会、夏祭り、クリスマス発表会などの各種季節行事を実施しているほか、近隣系列園と合同開催の地域の子育て世帯も参加できるベビーフェスティバルなども開催しており、多彩な行事の取り組みを通じて、子どもが経験や交流の幅を広げられるような取り組みが目指されている。</p>		
23	遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している。	<ul style="list-style-type: none"> ■子ども同士の関係をより良くするような適切な言葉かけをしている。 ■けんかやトラブルが発生した場合、危険のないように注意しながら、子供達同士で解決するように援助している。 ■順番を守るなど、社会的ルールを身につけていくように配慮している。 ■子どもが役割を果たせるような取り組みが行われている。 ■子どもが自発性を発揮し、友だちと協同して活動できるよう援助している。 ■異年齢の子どもの交流が行われている。
<p>(評価コメント)</p> <p>保育士の言葉かけは、子どもたちが人間関係を築く上での重要な要素であるという考えに基づき、職員の気づきを促すビデオ・カンファレンスによる研修や、クラスミーティング・職員会議等通じた振り返りを重ねている。また、遊びや生活の中でルールがあることを知ったり、ルールのある遊びを取り入れ、自分の気持ちを調整し友達と折り合いを付けながら、道徳性・規範意識の芽生えが身につくようにしている。子ども同士のトラブルの際は、保育者が仲立ちとなることを基本とし、幼児は子ども同士で考え解決できるように見守る中で、相手の気持ちに気付けることを目指している。幼児クラスは、当番活動や子ども自身が保育室の掃除やゴミ箱の回収を行うような取り組みも行っており、役割を果たすことの大切さや、見通しをもって自発的に行動できるようなプログラムの工夫を行っている。朝・夕の合同保育やお散歩・各種行事の際には、異年齢交流を取り入れるとともに、2週間に1回程度、3歳～5歳児の縦割りグループを作って、朝からお昼ごはんを含む、1日を通じて異年齢で過ごす機会も作っており、子ども同士の育ちあいや、他者を思いやる心など、人格形成の基礎を育むことが目指されている。</p>		
24	特別な配慮を必要とする子どもの教育及び保育	<ul style="list-style-type: none"> ■子ども同士の関わりに対して配慮している。 ■個別の指導計画に基づき、きめ細かい配慮と対応を行い記録している。 ■個別の指導計画に基づき、保育所等全体で、定期的に話し合う機会を設けている。 ■障害児教育及び保育に携わる者は、障害児教育及び保育に関する研修を受けている。 ■必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。 ■保護者に適切な情報を伝えるための取り組みを行っている。
<p>(評価コメント)</p> <p>特別な配慮を必要とする子どもへの支援は、発達の度合いに応じた個別の指導計画を立案し、職員会議やクラスミーティングなどを通じて子どもの様子や対応方法などを職員間で共有して対応している。気になる園児への支援についても、職員間で発達に関する情報を共有するとともに、行政の専門職による巡回指導を受けたり、系列の発達支援事業所の専門職などによる助言を受けたりすることで、個別の指導計画に反映して個々の状態に応じた保育に活かしている。また保護者とも密に連携を図り、子育てに関する不安を抱えている際には、必要に応じて個別面談の時間を持つことで、保護者が必要とする情報の提供を行い、安心して子育てができる環境作りに取り組んでいる。</p>		

25	在園時間の異なる子どもに対して配慮がなされている。	<ul style="list-style-type: none"> ■引き継ぎは書面で行われ、必要に応じて保護者に説明されている。 ■担当職員の研修が行われている。 ■子どもが安心・安定して過ごせる適切な環境が整備されている。 ■年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。
<p>(評価コメント)</p> <p>延長保育は、正職員を中心としたシフト制での対応としており、引き継ぎ事項は遅番担当の職員に引き継ぎ簿と口頭で伝達することで、迎えに来た保護者に適切に子どもに関する情報を伝える体制を整えている。また、連絡帳アプリのチャット機能による連絡や、日々更新しているドキュメンテーションブログでの写真と文字による情報発信などを通じて、保護者が園での子どもの様子を把握できるように配慮している。延長保育については、個々の体調や園児の疲労等も考慮し、水分の提供や必要に応じてマットを保育室内に設置し、子どもが安心・安定して過ごせる適切な環境が整備されている。延長保育の時間帯は、パーティションを利用して幼児・乳児とでスペースを分けて保育を行うとともに、人数が少なくなると1つのクラスに編成することで、長時間の利用でも友だち同士で遊びながら、楽しくゆったりと過ごすことができるように配慮している。</p>		
26	家庭及び関係機関との連携が十分図られている。	<ul style="list-style-type: none"> ■一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、子どもの発達や育児などについて、個別面談、教育及び保育参観、参加、懇談会などの機会を定期的に設け、記録されている。 ■保護者からの相談に応じる体制を整え、相談内容が必要に応じて記録され上司に報告されている。 ■就学に向けて、保育所等の子どもと小学校の児童や職員同士の交流、情報共有や相互理解など小学校との積極的な連携を図るとともに、子どもの育ちを支えるため、保護者の了解のもと、認定こども園園児指導要録及び保育所児童保育要録などが保育所等から小学校へ送付している。
<p>(評価コメント)</p> <p>園では家庭生活との連続性を重視しており、保護者が子どもの様子や園の特徴的な保育を直接見る機会として保育参観や保育参加を実施しているほか、スポーツフェスティバルやビーフェスティバル、クリスマス発表会などの行事に保護者を招待することで、子どもの成長を実感できる機会としている。更に、クラス別の懇談会も実施し、保護者同士での親睦や意見交換の場ともなっている。保護者の意向を把握する取り組みは、個人面談・保育参加後アンケート・行事後アンケート・年度末アンケートを通じて行っており、結果を集計して保護者に開示し、翌年度の計画に反映している。また、園だより、保健だより、給食だより、献立表などもアプリ配信及び印刷物を通じて情報提供し、保護者が必要な情報をいつでも確認できる体制としている。9月と3月に半年間の保育の内容と成長の様子を記録したAIAIレポートを作成配付し、子どもの発達や成長を保護者と共有できる体制を整えている。円滑な就学に向けては、年長の担任による保育要録の送付、小学校教頭との情報共有、年長児による小学校訪問や小学生を園に招いての交流会実施など、小学校との多彩な交流事業を通じて、就学後のイメージを膨らませ、就学への期待感を持てるような配慮を行っている。</p>		
27	子どもの健康状態、発育、発達状態が適切に把握し、健康増進に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ■子どもの健康に関する保健計画を作成し、心身の健康状態や疾病等について把握・記録され、嘱託医等により定期的に健康診断を行っている。 ■保護者からの情報とともに、登所時及び教育・保育中を通じて子どもの健康状態を観察し、記録している。 ■職員に乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する知識を周知し必要な取り組みを行い、保護者に対して必要な情報を提供している。 ■子どもの心身の状態を観察し、不適切な養育の兆候や、虐待が疑われる場合には、所長に報告し継続観察を行い記録している。
<p>(評価コメント)</p> <p>園独自で保健委員会を立ち上げ、保健計画を含む子どもの健康管理に関する取り組みを行っている。今年度は新たな取り組みとして、市の歯科衛生士による歯科指導を実施し、歯に関する説明や、虫歯による影響・歯磨きのやり方など、口腔内の清潔保持について学ぶ機会としている。日々の子どもの健康状態の把握は、朝の保護者からの申し送りや視診による健康観察及び検温を行い、保育日誌に内容を記録している。年2回の嘱託医による内科検診と歯科検診を行い、その結果を家庭と共有することで、子どもの発達や健康状態を、専門的な知見から定期的に把握できる体制となっている。毎月実施する身体測定を通じて、成長曲線や乳幼児の発育状態の程度を表すカウプ指数を把握し、年度末には「成長記録のグラフ」を保護者にアプリで配信している。午睡時には全園児を対象にSIDSチェックによるうつ伏せ寝の予防対策を行い、昼寝時の状態はアプリの日誌に記録している。家庭と連携しながら、子どもの健やかな成長を見守る仕組みが構築されている。不適切な養育の兆候や虐待の有無も含めて、子どもの様子を見て気になる事項があった場合には、必要に応じて児童相談所等の関係機関に連絡し、連携できる体制を整えている。</p>		

28	感染症、疾病等の対応は適切に行われている。	<ul style="list-style-type: none"> ■教育及び保育中に体調不良や傷害が発生した場合には、その子どもの状態等に応じて、保護者に連絡するとともに、適宜、嘱託医や子どものかかりつけ医等と相談し、適切な処置を行っている。 ■感染症やその他の疾病の発生予防に努め、その発生や疑いがある場合には、必要に応じて嘱託医、市町村、保健所等に連絡し、その指示に従うとともに、保護者や全職員に連絡し、協力を求めている。 ■子どもの感染・疾病等の事態に備え、医務室等の環境を整え、救急用の薬品、材料等を常備し、適切な管理の下に全職員が対応できるようにしている。
<p>(評価コメント)</p> <p>急な体調不良などに備えて、事務室の中に医務スペースとコットが設置されており、救急用薬品や材料等を常備して適切な処置が行える体制を整えている。保育中に体調が悪くなったり、ケガが発生した場合には、状態に応じて保護者に連絡をし、必要に応じて主治医や嘱託医などの協力を得る体制としている。登園許可証が必要となる感染症が園内で発生した場合には、必要に応じて自治体や保健所への報告を行い、専門的な知見からの助言をうけるほか、保護者への情報発信や園内掲示により、注意喚起を図る体制としている。自治体や嘱託医等から得た感染症情報や季節ごとに流行しやすい感染症の情報は、園だより・保健だより等を通じて保護者に伝えている。1年を通じて水分補給を徹底し、子ども及び職員の手洗い・うがいの励行で病気の予防を図っている。下痢や嘔吐処理に関するマニュアルの確認やロールプレイ研修も定期的に行っており、感染症等が発生した際にも、職員が迅速かつ適切に対応できる体制を整えている。</p>		
29	食育の推進に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ■食育の計画を作成し、教育及び保育の計画に位置付けるとともに、その評価及び改善に努めている。 ■子どもが自らの感覚や体験を通して、自然の恵みとしての食材や調理する人への感謝の気持ちが育つように、子どもと調理員との関わりなどに配慮している。 ■体調不良、食物アレルギー、障害のある子どもなど、一人一人の子どもの心身の状態等に応じ、嘱託医、かかりつけ医等の指示や協力の下に適切に対応している。 ■食物アレルギー児に対して誤食防止や障害のある子どもの誤飲防止など細かい注意が行われている。 ■残さず食べることや、偏食を直そうと強制したりしないで、落ち着いて食事を楽しめるように工夫している。
<p>(評価コメント)</p> <p>栄養士が中心となって、0歳児から5歳児までの各年齢別の食育計画を立案・運用しており、給食委員会や職員会議において内容の評価や検証を行うことで、園全体で食育を推進している。園庭ではプランターを設置して、夏野菜の栽培を行っており、植え付けやお当番活動での水やり・収穫などを行い、楽しみながら食材や食への関心を深める取り組みを行っている。また、近隣での芋ほり体験や、季節ごとの行事食メニュー・お誕生日ケーキの提供のほか、スイートポテト作り、クッキー作り、春巻きスティック作り、さつまいも茶巾作り、ラップおにぎり作りなど、年齢に応じて、多様な参加型の食育プログラムを実施している。食物アレルギーへの対応は、個別の献立表を作成し、保護者の承認を得た上で除去または代替えによる対応を行っている。配膳時は、マニュアルに従って色分けされたトレーで配膳するとともに、給食担当と保育士が確認しあうことで、誤配食のないよう万全を期している。全国を対象とした給食に関する大会にも出場しており、提供する給食の品質と調理の専門性を高める取り組みを組織として積極的に行っている。</p>		
30	環境及び衛生管理は適切に行われている。	<ul style="list-style-type: none"> ■施設の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を常に適切な状態に保持するとともに、施設内外の設備及び用具等の衛生管理に努めている。 ■子ども及び職員が、手洗い等により清潔を保つようにするとともに、施設内外の保健的環境の維持及び向上に努めている。 ■室内外の整理、整頓がされ、子どもが快適に過ごせる環境が整っている。
<p>(評価コメント)</p> <p>室内は、衛生管理マニュアルに従い室温や湿度の設定を行い、加湿器、空気清浄機、エアコンの使用や定期的な換気などにより快適に過ごせるようにしている。冬季には床暖房も活用し、できる限り湿度を維持しながら、快適な温度を保てるように配慮している。保育室及び共用部は次亜塩素酸消毒液を使用して毎日清掃消毒作業を行い、子どもたちが使う玩具、とりわけ乳児に関しては口に入れても大丈夫なように消毒し、十分な衛生管理を行っている。室内外のおもちゃ等も、危険が無いように整理整頓されている。子どもの手洗いに際しては、衛生面に配慮して使い捨てのペーパータオルを使用しているほか、食事やおやつ前・遊んだ後の手洗いを徹底することで、園での生活を通じて健康を維持するための習慣が自然と身につくような取り組みが目指されている。今年度は職員からの提案により、子どものトイレの使い方について、幼児ミーティングを通じて検討を重ね、手洗いの方法についてもより効果的な実施方法へと見直しが行われている。</p>		

31	事故発生時及び事故防止対策は適切に行われている。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事故発生時の対応マニュアルを整備し職員に徹底している。 ■ 事故発生原因を分析し事故防止対策を実施している。 ■ 設備や遊具等保育所等内外の安全点検に努め、安全対策のために職員の共通理解や体制づくりを図っている。 ■ 危険箇所の点検を実施するとともに、外部からの不審者等の対策が図られている。
<p>(評価コメント)</p> <p>園の安全管理の取り組みとして「事故対応マニュアル」の整備、毎日実施する遊具の目視点検、チェックリストを活用して毎週実施する遊具や園の設備の安全点検を実施している。事故発生時や子どもが怪我をした場合は、事故報告書に状況を記録し法人本部に提出するほか、職員会議において事故の要因分析と再発防止策の検討を行い、内容を周知している。ヒヤリハットの事例についても、改善点などを職員会議やパートミーティング等を通じて共有し、事故を未然に防ぐ取り組みが目指されている。事故や怪我、乳幼児突然死症候群などへの職員の対応力を高める取り組みとして、正職員・パート職員の全職員を対象とした救命技能講習も実施している。散歩に出かける際は、園外散歩記録と点呼表を記載し、防犯ブザーや横断旗・笛・連絡用の電話を携帯することで、安全対策を講じている。不審者対策としては、園内の各保育室及びエントランスに防犯カメラの設置、オートロックドアの運用、送迎時の送迎カードの活用などを行うとともに、不審者対応の訓練も定期的にも実施することで、職員の対応力強化を図っている。</p>		
32	地震・津波・火災等非常災害発生時の対策は適切に行われている。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地震・津波・火災等非常災害発生に備えて、役割分担や対応等マニュアルを整備し周知している。 ■ 定期的に避難訓練を実施している。 ■ 避難訓練は消防署や近隣住民、家庭との連携のもとに実施している。 ■ 立地条件から災害の影響を把握し、建物・設備類の必要な対策を講じている。 ■ 利用者及び職員の安否確認方法が決められ、全職員に周知されている。
<p>(評価コメント)</p> <p>非常災害発生時においても、各職員・子どもが落ち着いて、的確な行動ができるように避難訓練を毎月実施している。訓練の内容は、火災・地震・津波・台風・行方不明・Jアラート・不審者など、様々な状況を想定した内容で実施しており、訓練を実施する時間帯なども、適宜変えることで、どのような人員配置・どのような状況でも、子どもの安全を確保し避難誘導等の措置を講じることができるように取り組んでいる。また、総合避難訓練を実施し、実際に避難場所までの避難も行うことで、園舎の周辺環境を考慮した災害対応力の強化が図られている。災害時の各家庭への連絡は、アプリで情報を伝える仕組みとなっており、入園時に重要事項説明書の中で避難場所の情報等を保護者に説明している。防災備蓄品は、資器材及び水・軽食等を一定量備えており、万が一の際にも園児及び関係者の安心と安全が確保できる体制を整えている。</p>		
33	地域ニーズを把握し、地域における子育て支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域の子育てニーズを把握している。 ■ 子育て家庭への保育所等機能を開放(施設及び設備の開放、体験保育等)し交流の場を提供し促進している。 ■ 子育て等に関する相談・助言や援助を実施している。 ■ 地域の子育て支援に関する情報を提供している。 ■ 子どもと地域の人々との交流を広げるための働きかけを行っている。
<p>(評価コメント)</p> <p>地域の子育て世帯が対象の「保育体験・子育て相談会」を定期的開催し、参加者の年齢や人数に応じて、園の玩具や設備を使った遊びの体験、絵本の読み聞かせ、製作活動等を行い、園の理念や特徴的な保育内容などを親子で体験できる機会としている。今年度は、近隣の系列園と共催で在園している乳児家庭に加えて、地域の子育て世帯も対象としてベビーフェスティバルを開催するほか、園独自の新たな取り組みとして、地域の親子を対象とした感触遊びの企画や、最寄り駅の訪問なども実施し、地域ニーズの把握や地域交流の更なる推進に向けて取り組んでいる。日常的な地域との関わりは、図書館訪問やお散歩時の近隣住民との挨拶、地域の農家での芋ほり体験、近隣の系列保育園との交流活動などを行っており、小学校就学後に、顔見知りやお友だちが増えるような配慮も行っている。園のエントランスには、自治体の発行する子育てに関する案内の設置や、近隣の社会資源の一覧等を設置し、子育て情報の提供を行っている。また、年度末の運営委員会においては第三者委員を依頼している地域の民生児童委員も参加し、保護者及び地域のニーズを園の運営に活かす取り組みが目指されている。</p>		